

SORA Thailand Similan

web magazine 2019.sep. vol.119

Photo & Text : Yasuaki Kagii

MAP
CLICK!

ビッグブルー ハレルヤ号で行く
タイ・アンダマン海クルーズ!

この3年、リチェリューロックが大変なことになってるの!!!

毎年11月から5月までシーズンを迎えるタイ・アンダマン海。シミラン諸島、コボン、コタチャイ、リチェリューロックをカオラックから、クルーズ船やデイトリップボートで目指す。2019年の4月に取材を行なった。幸運にもジンベイザメや巨大マンタに遭遇! しかし、それ以上に嬉しい景色を確認した。それは、3年前の取材時に異常な魚群に溢れるリチェリューロックを撮影したが、なんと昨年も今年も同じような魚群を誇っているということだった!

まずは、シミラン諸島から！ “ウェスト オブ エデン”にエントリー！

初日、シミラン諸島での1本目は、ウェスト オブ エデンに潜り込む。大きな奇石が連なる地形を降りていくと、キンギョハナダイが群れるソフトコーラルが現れてくる。水深20mでは、マッコスカーズラスがフラッ



シングをして誘惑する。同じ水深で進んでいくとウミウチワの街と呼ばれる、シーファンが連立しているところがあり、潮の流れ次第では、そこにもキンギョハナダイが群れ、シミラン諸島らしい賑やかな雰囲気となる。今回は、下から上がってくる冷水塊から逃げるように水深をあげた。そして、迷路のような地形に群れるワヌケヤッコのペアなどの出会いを楽しみながら、根の浅場にいるシマイギンポに夢中になった。ワイドもマクロも楽しいポイントで、レンズ選びが悩ましい。



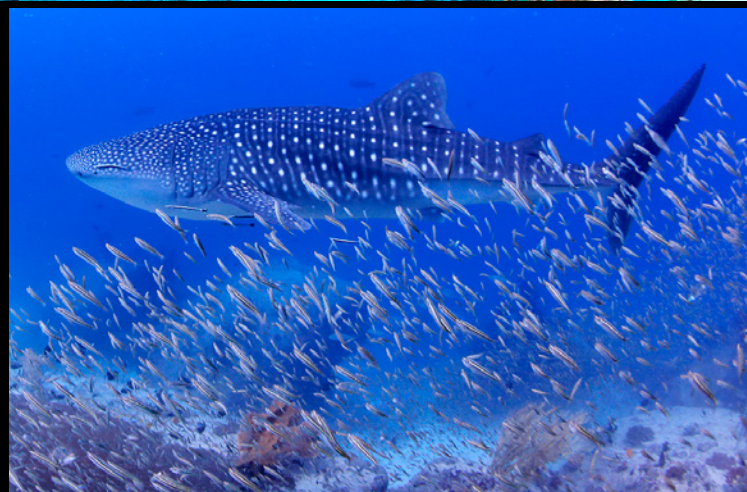
2本目は“ノースポイント”！

シミラン諸島の一番北のポイント。離れ根は潮当たりもよく、小魚も群れる。そこにカスミアジの編隊が襲いかかり、とても賑やか。見所はなんとと言っても、ダイナミックな地形にウミウシが並ぶ「ウミウシの谷」と呼ばれる場所。人間よりも大きなウミウチワが連立して、なかなかの迫力だが、写真でその魅力を表現するのは難しく、いつも悩ましい……。そのウチワの下、水深30m付近にアケボノハゼに似たエクスクイジタダートフィッシュがいる。少し前に第4種目のハタタテハゼの魚と認識された魚で、人気も高い。今回は、見つけた後すぐに冷水塊がやってきて穴に隠れてしまい、それから出てこずだった。メインの根に戻ると大きな壁のような奇石が迎えしてくれる。その上に住むクマノミやシマイギンポ、イヤースポット、テッドプレニーなどを見て楽しんだ。



3本目から、大盤振る舞い!!!だ! “スリーツリーズ”でジンベイザメ、来た!

なだらかな傾斜を降りていくと、広い砂地に到着する。水深20mほどに大きなサンゴの根があり、その亀裂には色とりどりのソフトコーラルが群生し、キンギョハナダイが彩りを添える。ストロボを光らすとより鮮やかな色彩がカメラのモニターに浮かび上がる。シミラン諸島らしい、青い海と原色の世界。潮の流れもちょうど良かったのか、砂地ではオーロラシュリンプゴビーとジョーフィッシュが巣穴から飛び出し、捕食を繰り返している。大きなイソバナの根元を見たら、金属の杭で支えられている。倒れたイソバナを国立公園とビッグブルーで立て直して復活させたとのことだった。そして、ガイドさんの鈴の音が海中に響いた。ガイドの健さんが、サメのジェスチャーをした。少し沖合に泳いでいくと、小ぶりだが、ジンベイザメが悠然と泳いでいた。水深20mのラインをまっすぐと泳いでいく。鈴の音を聞いて、ダイバーたちが集まってくる。みんなに大きな幸せを与え、ジンベイザメは青い海に紛れていった。

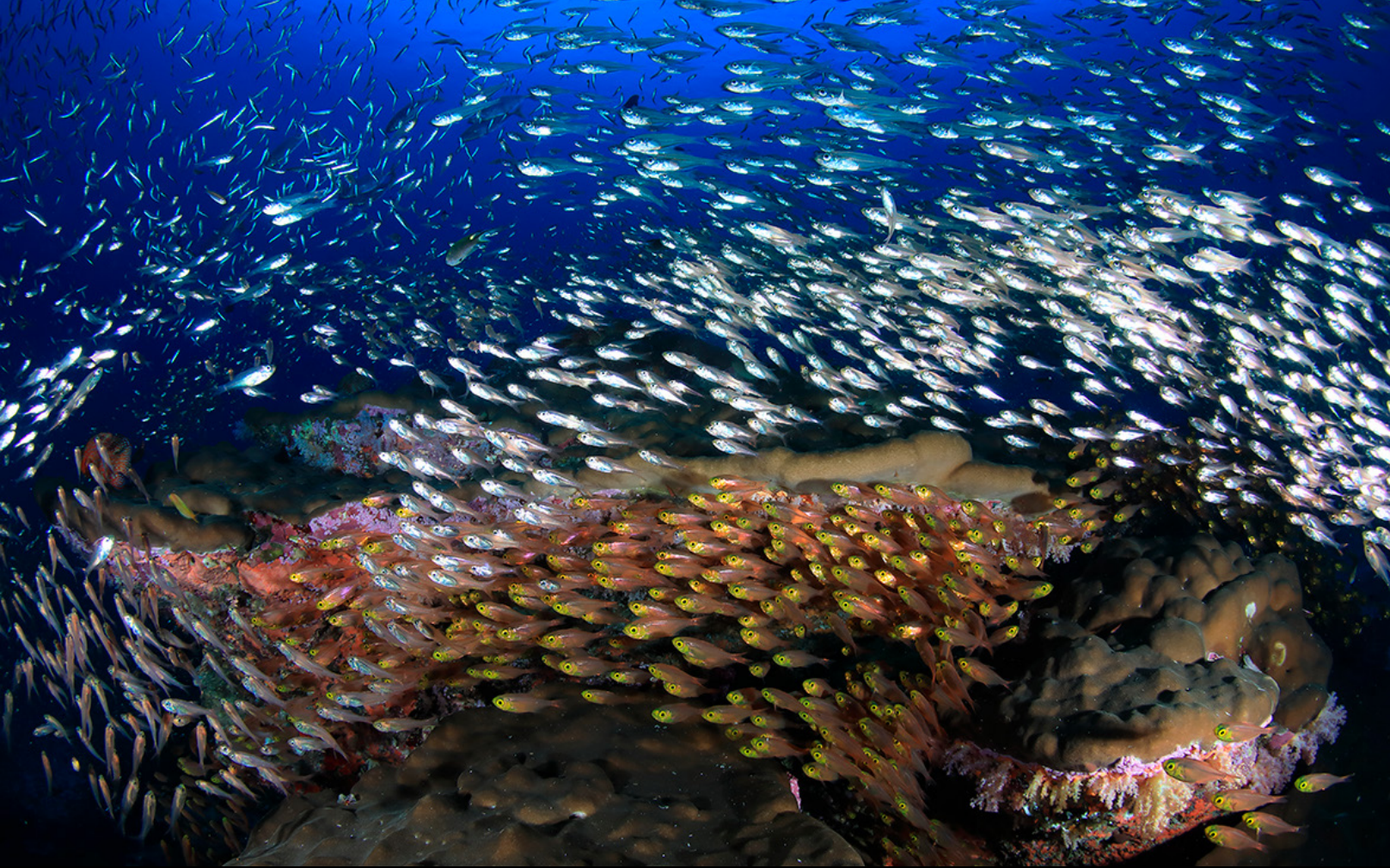


ビッグブルーは、生態行動も得意です！ @“タートルロック”

サンセットやナイトダイブでエントリーするポイント・タートルロック。今回は、サンセットダイブで、お魚たちの生態行動を狙った。まずは、アカネハナゴイの求愛行動。オスが真っ赤な背びれを広げて、メスに接近していく。そして、エイブルズ・エンジェルフィッシュのナズリング。オスがメスの下腹部をツンツンして産卵を促す。その後はスターリードラゴネットの放精放卵を撮影観察。この3つの産卵行動の時間帯をちゃんと把握して、それぞれの適性の時間で、産卵場に連れていってもらった。ビッグブルー恐るべし。

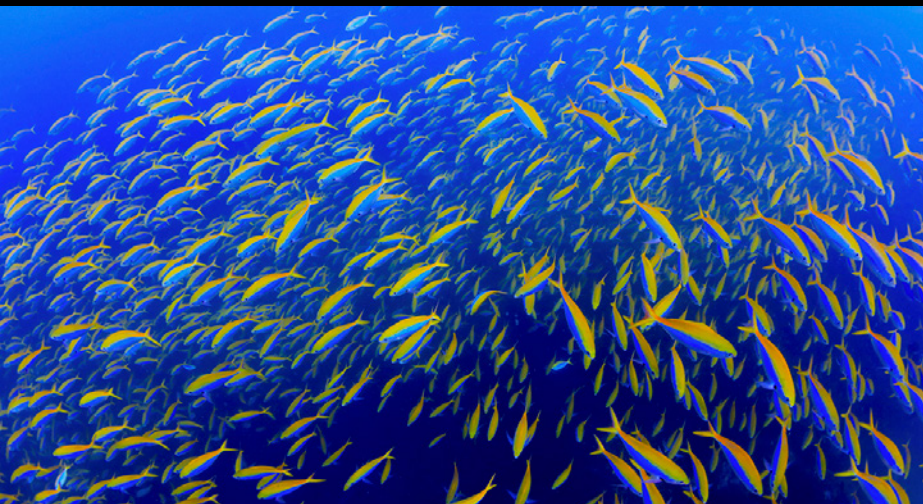
Thailand
Similan
Travel





ガイドがみんな口を揃えて、 2019年は当たり年だったと言う“コボン”！

その年によって、コボンのポイントも魅力は変化するが、取材時期であった2019年の3月後半は、ポイント全体をスカシテンジクダイが覆い尽くし、まるで海底に雲海が広がるような感じで、不思議な景色が眼前に広がる。そこにフエダイなどがハンティングを開始し、静から動に水の動きが変化する。このスカシテンジクダイの群れは、シーズン初めの11月ごろから群れていて、その時々によって量は変化するようだが、途中でまた増えたりするようなので、どんどん先細りで数が減るのではないようだ。そして、シーズンの前半は、出現率があまり良くなかったマンタが、3月に入って好調に出現している。今回出会ったのはリッチと呼ばれる潮あたりの根の先端。合計4枚のマンタが私たちの頭上を旋回する。時折、私たちよりも下の方を泳ぐこともあり、緩やかな接近を許してくれる。そして今回、初めて紹介してもらったのが、ロウニンアジが集団でたむろする穴。ゆっくり侵入していくと、5〜6匹の単位で穴から泳ぎだし、青い海の向こうに消えていく。アジといえど、サイズがなかなかあり、強面?なので、迫力がある。とにかく、2019年のコボンは、そここに魅力があり、どこに潜っても楽しい魔法のポイントだった。



博打のように、当たるか！ 外れるか！ それが魅力の“コタチャイ”！

ポテンシャルの高いポイントではあるが、潮の流れによってその魅力は大きく変化する。今回はちょうどタイミングが良かったのか、潜降直後からカスミアジの若魚の群れに追われるイエローバックフジュラーの群れに取り巻かれる。少し透明度が悪かったが、黄色いラインがまるでネオンのように無数に流れていく。5分も経たないうちにガイドの健さんのベルがなり、大きなマンタが姿を現す。クルーズ2日目の3本目。今日は全てのダイビングでマンタと会っている。上出来。出来過ぎの日々。潮あたりの良い根の先端に到着するとクマザサハナム口の群れも登場して、海中はより一層にぎやかに。登場した2個体目のマンタには、フィッシングラインが巻きついてた。ガイドさんが少しそのラインをナイフで切り放したが、全てを取り除くことはできなかった。海の美しい面と現実を知った貴重な1ダイブとなった。



久しぶりの“スリン諸島”は、 ピキピキのサンゴが待ち受けていた！

2019年から、再び潜り始めたスリン諸島。大物ポイントのリチュエーロックのすぐ先にあり、数年も潜ってなかったが、ある機会に訪れてみると、サンゴ礁があまりにも健全で美しいので、レポートリーとなった。今回エントリーしたのは、タートルレッジというポイントで、水深20mの砂地にまず降り、カラフルなソフトコーラルに隠れるマクロの生物を観察していく。サングネロ・ドワーフゴビーやストライプドヘッド・ドワーフゴビーといった小さくてカラフルなハゼが迎えてくれる。また、他のエリアではなかなか見かけないローランドダムセルも多く、幼魚がこれまた可愛い。そして、水深をあげてくると、見事なサンゴ礁が延々と続いている。そこにネッタイスズメダイが彩りを添えるが、数がなかなか多い。中層では、シリテンスズメダイも群れている。人工物に産卵をするクジャクスズメダイも教えてもらった。再びポイントに仲間入りしたスリン諸島は、美しい珊瑚とスズメダイが大きな見所であった。



Thailand Travel
Similan



アンダマン海の最終目的地で、今、世界で最もHOTなダイビングポイントの筆頭！ “リチュエーロック”！

「安定のリチュエーロック」です。とビッグブルーのオーナーガイドの大村健さんが話す。3年前に、リチュエーロックに取材で潜ったときは、本当に驚いた。これまでもキンセンフエダイなどの群れが根を覆い、魚群が濃いと言う印象が強かったリチュエーロックだが、ここ数年、いや3年前から、とにかく異常なほどの魚群を誇っている。まず、根の全体を覆うスカシテンジクやバイトフィッシュ。中層に分厚い夏雲のように浮かぶタカサゴの仲間の幼魚たち。それから小魚を狙う無数のロウニンアジの群れ。そしてなんとと言っても迫力なのが、キツネフエフキとアジ、ヒメジなどの集団捕食。まるで海底にあるもの全てを奪っていくような勢いで、ダイバーのことなど微塵も気にせずに獲物を狙い、捕食を繰り返す。この集団はとてもアクティブで、潮あたりの良い根にいと、何度も何度もパレードしてやってくる。これが本当にすごい。もちろん、ギンガメアジやピックハンドルバラクーダの群れも素晴らしいが、このキツネフエフキなどの集団の前では、申し訳ないが少し霞んでしまう。ギンガメアジやピックハンドルバラクーダの群れは他の海でも見ることができるが、コンスタントに、それも大規模なキツネフエフキなどの集団は、他の海では見れないと思う。そう言う意味では、この時期このリチュエーロックが、世界中の他のどのポイントよりも、エキサイティングでダイバーの想像を超える世界観を持っているように思える。来シーズンもこのような魚群を誇るのであれば、取材でなくともプライベートでも訪れたいと思えるほどだ。





Thailand Travel
Similan

リチュエローロックは、これまでの有名ダイビングポイントの常識を覆してくれる。
こんなに人気なのに、未だ圧倒的な魚群を誇る！



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく





今回お世話になったハレルヤ号

人気のビッグブルーがオペレートするタイ最大級のダイブクルーズ船。客室13部屋で、最大ゲスト人数25名。各客室にシャワー&トイレがあり、スペースは限られる。しかし広いリビングやサンデッキ、半屋外のスペースなどが居心地が良いので、クルーズの居住性は快適。特筆すべきは、毎回の食事が本当に美味しい。朝食は洋食がメイン。そして、ランチとディナーとおやつはタイ料理!!! この3食が本当に素晴らしい。ダイビングも最高、食事も最高!となれば、もうこれはダイバーには至福ですね。ダイビングスタッフもアングマン海を知り尽くしたガイド人が集い、フォト、ビギナーなどゲストのニーズに幅広く対応する。そして、シミラン諸島、コボン、コタチャイ、リチュリュロックへのスピードボートによるデイトリップも人気で、カオラックでのリゾートステイを楽しみたい方に大人気。



ゴビーマニア垂涎の アドニスシュリンプゴビーに会える「どろりんちょ」

カオラックがマレー半島に位置しているために、干潟や河口域、汽水域、マングローブ林や川など、様々な環境がある。そのため海とはまた違った生物を観察することができる。このポイントもその一つで、ビッグブルーが開拓したオリジナルポイントである。

シミランクルーズで潜るようなエリアではなく、環境は砂泥地。地味な環境ながら、美しく珍しい生物が生息。特にオススメは、アドニスシュリンプゴビーで、アドニスの意味は、美少年。ギリシャ神話に出てくる美少年の名前が付けられている。オスの第一背びれが長く、また姿態も精緻な色合いで美しい。他にも、イエローウォッチマンやブルーシュリンプゴビーなどのどろハゼの宝庫。水深も浅いので、時間を忘れ、あっという間の1ダイブを楽しむことができる。



外国版ムツゴロウに会いに行く

日本に生息するムツゴロウのように見た目、仕草がとても可愛く、また、日本のムツゴロウに比べて、青い斑点などがあり、少し艶やか。英名は、Boddart's goggle-eyed goby で、和名はない。ムツゴロウは通常、マングローブの干潟で見られるために、泥で汚れての観察が多いが、この外国版ムツゴロウは、ビッグブルーのオリジナルポイントで、全く泥に汚れることなく、気軽に間近で観察できるのが嬉しい。望遠レンズなどの必要もなく、iPhone やコンパクトカメラでも撮影できる。他には、シオマネキの仲間、トビハゼの仲間もいる。滞在最終日の陸のアクティビティーで、最後まで生き物観察を楽しみたい方にオススメ。